
黒猫の前世の記憶は喫茶店と珈琲

佐伯彩瑠

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

黒猫の前世の記憶は喫茶店と珈琲

【Nコード】

N0185S

【作者名】

佐伯彩瑠

【あらすじ】

黒猫が気配に見つけたものを語る。珈琲でも片手にゆっくり聞いていってくださいな。

黒猫の前世の記憶は放浪と夢

光を遮る為の布切れも

私の安眠を妨げる為か、

安心の一筋を射れる為か、

一向に役目を果たしてくれない。

８８パーセント引きの布切れも、

桁数の間違えたバターナイフも、

近づく事すら畏れ多い教会だって、

この部屋で回想する遊戯に出てくるわ。

光に照らされた部屋の中で

触れることを躊躇うような楽器たちが

その姿を晒してまで、

大丈夫だと見えない音を奏でてる。

迷い込んだ入れない筈の館で、

只の空想の世界の部屋の一つ一つを

覗いて歩く私にそつと手を差し出すのは

白い手袋の……どちら様？

色とりどりの花、

私は一輪の花だけしか持つてないのに

其処には大量の花束が添えられていて、

此処は天国かしら　なんて。

つまらない毎日に少しスパイスを。
見つけた裏通りを黒猫のように
するりとすり抜け歩いていく、
「楽しい場所」だけが行き先の条件ね。

此処には居たくないわ、
世界中を旅するの。
一カ所に留まるなんて
育ち盛りの黒猫の私には辛過ぎる。

硝子張りのビルに映った曇り空、
所々の青空が無性にどうしてだか
私の心を捉えて離さなくて、
ずっと見ていたらばーっとしてたみたいなの。

木々の花も空の表情すら
私には手が届かなくて、
カメラのシャッターは切れなかった。
でも心のフィルムには収めたのよ。

だから自由に思い描くの。
こうして黒猫になった今も未だ
こうした記憶だけは忘れてないもの。
他の記憶は全て雲散霧消しても。

もう時間、
欠伸が出るのは長旅に疲れたから？
でもまた旅に出るから

今のうちに休んでおこう。

思い出せる日常に音も色も必要、
だから耳と目は死守してみせる。
どんなに動くのが辛くても
私は放浪してなんぼの猫だものね。

さあさあ、もうお行きなさい小鳥たち。
今日のお話はもうお仕舞い。
あら、寂しくないようにお花をくれるのね？
じゃあここに飾っておくわ。

貴方たちに春が来ますように。
その轉りが周りを癒やすのだから、
その轉りで花が実を結ぶのだから、
疲れたら私みたいに休んでいいのだから
ずっと私の頭上で唄っていて。

黒猫の前世の記憶は地上の軌跡

欠伸をしながら下から見上げる黒猫を
人間はどう思っているのかしら？
ふと疑問に思っただけだけど
答えてくれる人はいるかしら。

華奢な身体をうねらせて、
グレーの毛並みは輝いている、
そんな猫には首にプレート添えて
縛り付けているのでしょうか？

でも私は楽よね、
薄汚い黒い毛並みで誰も拾わない。
結果私には誰よりも自由があって
誰よりも楽しく生きている。

地上数十糎^{センチ}から眺める景色は
それはそれで趣深いの。
見上げる空なんて人間よりも
大きく見えるんだから羨ましいでしょ。

もうちょっとだけ高いところから
空とこの風を感じていたくて
そこら辺の塀に登ってみただけ、
ああやっぱりその景色も甘美よね。

この黒猫のように薄汚れた塀は、

比べものにならないような賑やかな通りの裏に
申し訳なさそうに存在する。

貴方の方が先客なんでしょう？

それなら堂々としてなさいよ、

そうじゃないと私も心地良く居られないわ。

此処は巷で話題の

ツンデレとやらを演じてみるの。

あの大きかった頃だつて私は、

狭い路地も人気のない道も好きだった。

終わりは無い無限ループな路地構成に、
心躍らせていたんだもの。

今はもつと狭隘きょうがいな場所も行けるわ、

つて誰に対してだか自慢する。

干してある魚だつて

気軽に盗めちやいそうじゃない？

森の木のように乱立する人の足を

踊りながらかい潜くぐる。

ちよつとだけ見上げた先には、

春と称したハナビラと楽しそうな顔。

羨ましいなんて思つてはないわ、

だけど鼻先に付いた桃色の匂いが

こつちへおいでと誘つてるんだもの。

少しくらい良いわよねえ？

地上から数十糎のところから臨む。
大きく見える木もまた良い感じね、
近くから見るのも好きだけど、
この場所からの景色も悪くないのよ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0185s/>

黒猫の前世の記憶は喫茶店と珈琲

2011年5月23日18時09分発行